

鍋を囲もう

～ 2学期終業式・校長訓話より ～

年の瀬を迎えていよいよ寒さも本格化してきました。しかし、寒さこたえる冬だからこそ、その存在感をアピールする役者はたくさんいます。

「冬と言えど？」何でしょうか —— その一つが、「鍋」。

先ごろ、あるグルメ誌が「みんなの食べたい鍋ランキング」2017年度版を発表しました。1位は今年もダントツで「すき焼き」、2位に「キムチ鍋」、3位に「しゃぶしゃぶ」。この辺は不動の順位だそうですが、ヘルシー志向でランクをあげてきた「豆乳鍋」とか、地域色の濃い「しょつつる」、「博多もつ鍋」などなど、まさに百花繚乱です。

このように、今や日本の冬の風物詩となった「鍋」ですが、冬の定番としてその地位を確立したのは、ここ十年、二十年ぐらいのように思われます。たとえば、私たちが高校生だったころ、「鍋」はそれほど食卓に登場してきませんでした。

しかし、今やこの季節、テレビで鍋のCMを目にしない日はありません。スーパーに行くときあちらこちらに「鍋」の文字が躍ります。「鍋」がこれほど隆盛を極めているのは、どうしてか。それは、この「鍋」という料理が、現代人のニーズを絶妙に反映しているからではないか。そう考えました。

鍋はさほど手間ひまかけず、リーズナブルに、しかも健康的に、そこそこ豪華な食事を演出します。まずこの点が、世代を超えて支持される要因であると思われます。

そしてもう一つ、現代において失われつつある家族や仲間のつながりを繋ぎ止めたという、人々の潜在的な願望や危機感の現れではないか。

数年前から、「孤食」という言葉を耳にするようになりました。近年、一人で食事を取る人が増えているらしいのです。

そもそも、気心の知れた誰かとナンダカンダ言いながら食べると、料理はいつそう美味しくなります。ところが、特に都会地において、そうした誰かを持とうとしても持てない人が増えている。また一方で、自ら進んで「孤食」に走る人も少なくない。誰かと一緒に煩わしくて嫌、という人が増えているのだそうです。

ある評論家が、「世の中は“疎遠社会”から“無縁社会”へ進みつつある」と言いました。ちなみに“ラーメンだけは一人黙々と食べるほうがウマイ”というのは私の持論ですが、今のラーメンブームも、社会風潮として考えると何だか怖く思えます。

「今夜は鍋でも囲もうか」と口にした、あるいは耳にした瞬間、何かしらの心地良さを感じる人は少なくないと思います。「鍋を囲む」という言葉には、それだけで人の心を癒す不思議な力があります。

改めて、皆さん。「鍋」の美味しい季節です。冬休みの間に、どうか一度は家族や友達と鍋を囲んで、この季節ならではのコミュニケーションを楽しんでください。

★ 参考資料です ★

「みんなの食べたい鍋ランキング2017」

2017年			2016年	
1位	すき焼き	(196票)	1位	すき焼き
2位	キムチ鍋	(161票)	2位	キムチ鍋
3位	しゃぶしゃぶ	(125票)	3位	しゃぶしゃぶ
4位	もつ鍋	(84票)	4位	もつ鍋
5位	寄せ鍋	(76票)	5位	おでん
6位	おでん	(68票)	6位	鶏の水炊き
7位	鶏の水炊き	(63票)	7位	寄せ鍋
8位	豆乳鍋	(34票)	8位	豆乳鍋
9位	ちゃんこ鍋	(26票)	9位	ちゃんこ鍋
10位	湯豆腐	(23票)	10位	カニしゃぶ

(某情報誌 2017年11月号：全国の20代～30代の男女1044人アンケートより)